NEWS LETTER VOL.6

早稲田大学 社会的養育研究所
Research Institute for Children's Social Care
2023年7月発行

所長ご挨拶

早稲田大学社会的養育研究所 所長 上鹿渡 和宏

2020年 7月より日本財団の助成を受け、継続してきた当研究所の活動も4年目を迎えました。途中、新型コロナウィルス感染拡大による影響を受けながらも、関係する皆様の支えによって、すべての子どもの最善の利益を保障する社会的養育システムの実現に向けて取り組み続けることができております。皆様のご協力とご期待に心より感謝申し上げます。

また、2021年、2022年度と続けて厚労省より受けた都道府県社会的養育推進計画の進捗評価に関わる調査研究については、その成果を 2023年3月に報告書としてまとめ当研究所ホームページに掲載しております。今後、こども家庭庁、社会的養育・家庭支援専門部会で検討の上、新たな計画策定要領が示され、子どもの最善の利益を確実に保障する計画が全国で策定されます。2023年度も引き続きこども家庭庁から調査研究を受けておりますので、新たな社会的養育が子どもにとってより良いものとなるよう、「こどものために」で終わらせず「こどもとともに」へ確実につなげる研究所の役割をしっかりと果たして参ります。

引き続き皆様からのご協力を賜りたく、どうぞよろしくお願いいたします。

2023年度新メンバーのご紹介

那須 里絵 Rie NASU 〔次席研究員〕

博士(学術)。公認心理師、臨床心理士。2021年、国際基督教大学大学院博士後期課程修了。国際基督教大学教育研究所助手を経て、現職。児童・思春期のグループセラピー、スクールカウンセリング(教育相談)の実践と研究に取り組んできました。近年では、メンタライゼーション、メンタライジング・アプローチにも関心を持っています。今後、社会的養育と教育をつなぐ研究に取り組みたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

徳永 祥子 Shoko TOKUNAGA〔研究補助者〕

博士 (福祉社会学)。アイルランドインチコアカレッジ、英国ルートン大学卒業後、京都府立大学大学院で学ぶ。大学院ではライフストーリーワークを学び、その後、児童福祉施設や里親家庭、養子縁組家庭で暮らす子どもに向けた研修と研究を行っている。現在の担当プロジェクトは「子ども家庭ソーシャルワーカー資格委員会」。

横幕 朋子 Tomoko YOKOMAKU〔研究補助者〕

2019年に三菱UFJリサーチ＆コンサルティング㈱に入社後、主に児童福祉や保育、地域共生分野の調査研究に従事。現在の担当プロジェクトは、自治体モデルプロジェクト(福岡市)、母子生活支援施設における親子関係構築支援ソーシャルワークの実態調査等。

木村 絵理子 Eriko KIMURA〔研究補助者〕

2014年日本女子体育大学舞踊学専攻卒業。2016年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。専門はダンス、パフォーミング・アーツ、写真、映像。川口市立映像・情報センター メディアセブンでの企画・運営職を経て、現在フリーランスデザイナー、イラストレーター、カメラマンとして活動。

研究プロジェクト 活動報告 1

PROJECT 01

乳幼児里親支援研修開発プロジェクト

わが国には、脆弱な状態に置かれやすい社会的養護のもとにいる乳幼児を支援するための研修プログラムがほとんどありません。そこで本プロジェクトでは、乳幼児里親および乳児院のスタッフに対して、社会的養護のもとにいる乳幼児についての知識や実践に基づく子どもの観察法、家族支援等を学ぶことのできる包括的な研修プログラムを作成し、実施しています。具体的には、里親養育研修動画の作成や、英国タビストックで開発された Watch me play! プログラムをもとにした乳幼児里親支援プログラムの開発と評価方法の検討を、研究員、外部の専門家や実務家含めた検討委員会で行なっております。

PROJECT 02

Skills to Foster 監訳プロジェクト

イギリスで、いわゆる認定前研修として広く使用されている Skills to Foster の日本版を作成すべく、2020 年度より専門家による委員を立ち上げ監訳に取り組んできましたが、ようやく支援者用のリーダーズガイド及び参加者用のハンドブックの監訳が終了しました。これから出版社と打ち合わせをし、2023 年度以降の出版を目指します。現場に届けられるのを我々委員一同楽しみにしています。

PROJECT 03

自治体モデルプロジェクト

家庭養育推進に向けて、モデルプロジェクト自治体（大分県、山梨県、福岡市）と日本財団との間で協定が締結され、研究所として自治体におけるプロジェクトや体制整備のサポート、評価・検証等の準備を行なっております。現在、それぞれの自治体の関係機関（本庁、児童相談所、民間機関等）と研究所との間で、プロジェクトマネジメントチーム (PMT) を設置し、乳幼児短期緊急里親事業、児童家庭支援センターの新設、里親リクルート、乳児院の多機能化、パーマネンシー保障に向けた児童相談所のケースマネジメント実践について検討を続けております。

PROJECT 04

ユース会議

ユース会議は 2020 年度に設置され、委員会は社会的養護経験者により構成されています。研究所の研究員が「ユースから意見をもらう場」とされ、研究についてユースの意見・助言を求める形で会議を実施しています。2022 年度は、全 4 回のユース会議を実施しました。ユース会議の構成員が研究員とともに関心のあるテーマを深める「ユースの提案をもとに考える場」の開催や、自治体に対し「当事者参画」、「社会的養護経験者の『声』」、「アフターケア」について理解と支援の充実を求める提言を行いました。2023 年度も引き続き、これらの活動を継続する予定です。

PROJECT 05

フォスタリング機関の評価のあり方に関する調査研究

本研究は、里親養育のもとで育つ子どもの権利擁護を図り、養育と支援の質を向上させていくために、日本のフォスタリング機関の評価方法を開発することを目的としています。2020 年度は、日本の他の評価制度や英国の評価機関を参考に提言をまとめ、2021 年度には、評価項目試案を作成しました。2022 年度は、日本の民間フォスタリング機関において評価を試行実施し、評価指針（案）を策定しています。2023 年 4 月にはフォスタリング機関が児童福祉施設（里親支援センター）として位置付けられることに伴い、第三者評価が導入される見込みです。これまでの研究成果をもとに、各機関の活動の改善に寄与できるよう、引き続き評価方法の検討を行っていきます。

研究プロジェクト 活動報告 2

PROJECT 06

フォスタリング・アセスメントの在り方に関する調査研究

2020 年度、2021 年度と、日本の調査、また英国や豪州等の調査を基にフォスタリング・アセスメントのフォームを作成してきましたが、2022 年度はそのフォームについて実際にフォスタリングの現場に関わるワーカーから使用感をヒアリングして再検討しました。また、単にフォームを作成するだけではなく適切かつ効果的に使用できるように、アセッサーの研修を企画して実施し、参加者よりフィードバックを受けました。今後は、里親さんの研修とアセスメントを連結することを考えていく予定です。

PROJECT 07

翻訳プロジェクト

社会的養育の中でも主に里親養育の支援に役立つ海外の論文や書籍、資料を翻訳することを中心に行なっております。引き続き、英国オックスフォード大学リーズセンターのホームページで公開されている社会的養護に関する論文などの翻訳を行い、当研究所のホームページで公開していきます (現時点で 16 点の論文を日本語版として公開しています)。また書籍として、主に英国の里親養育・養子縁組に関するアタッチメント、乳幼児の支援、アセスメントに関する書籍のほかに、今後は社会的養護の子どもの理解と支援について、また米国の学校における里親支援に関する書籍についても翻訳出版の準備を行なっています。

PROJECT 08

親子関係構築支援ソーシャルワークの実態把握

子どものパーマネンシー保障の観点から、実親子による養育継続に向けた親子関係構築支援の重要性が増す中、母子生活支援施設は母子を分離しない唯一の社会的養護施設として、家庭養育を支援するソーシャルワークの知見が豊富に蓄積されていおり、その言語化や体系化は多くの自治体の体制充実に資するものと考えられます。本プロジェクトでは、全国母子生活支援施設協議会との共同調査研究として、親子関係構築に係るソーシャルワークの実態把握を目的として実施しております。

PROJECT 09

養育者支援プログラムの活用促進

近年、わが国において虐待の早期発見や早期介入の取り組みが進むなかで、その後の家庭支援には課題が多いと言われています。特に、虐待につながる恐れのある養育者の育児不安や育児困難感を軽減し、親子の関係を良好なものにするための治療的・教育的支援は十分とは言えません。一方で、効果的な支援プログラムはいくつも存在していることから、支援対象者のニーズに応じた支援プログラムの提供がなされていない現状が示唆されます。そこで、本プロジェクトでは、さまざまな養育者支援プログラムの実践家のネットワークを構築し、支援プログラムの活用・普及を推進するための取り組みを実施しています。

PROJECT 10

こども家庭ソーシャルワーカー資格委員会

子どもと家庭を支援する専門のソーシャルワーカー資格はこれまでもその必要性が重要視されていました。我が国でも、2024 年度より新資格が導入されます。その 2 年後にはその資格制度の見直しが予定されています。そこで、本委員会では、幅広い専門資格の内容を国内外の事例を集めながら検討しています。去年度はフランスと英国の現状や歴史的経緯を学びました。今年度は、引き続き、海外の動向にも目を向けつつ、日本国内の隣接領域の専門職養成からも学びたいと考えています。

その他の活動、成果等１

令和４年度厚生労働省補助事業の受託

当研究所では、厚生労働省令和４年度子ども・子育て支援推進調査研究事業を受託し、「社会的養育推進計画の適切な指標設定に関する調査研究」を実施しました。

各都道府県等では、2016 年改正児童福祉法や 2017 年「新しい社会的養育ビジョン」を踏まえて、家庭養育優先原則や子どもの最善の利益の実現を政策的に達成する具体的工程として、社会的養育推進計画を策定しています。2020 年度より計画に基づいた実践が始まっているなか、計画期間は 10 年間であり、前期期間の最終年度 (2024 年度) において具体的な見直しが予定されています。本調査研究では、検討に必要な現行の推進計画に基づく実態を分析・評価し、各自治体の実情も踏まえて、新たな社会的養育推進計画の記載内容や評価指標の在り方を検討しました。

児童相談所・里親業務担当者向け研修会の開催

2022/10/17-18 対面開催
＠早稲田大学121号館

各児童相談所の里親業務担当者に向けて、自治体間の職員交流に加えて、里親支援の具体的内容の検討、里親委託率向上のための工夫の共有等をテーマとして取り上げ、各自治体の家庭養育推進の一助となるよう研修会を実施しました。これまで、里親担当者の横のつながりを作るような全国的な研修が行われてこなかったなかで、福岡市におけるパーマネンシー保障の実践、里親ショートステイ等についてご講義をいただき、参加者同士の意見交流を行いました。

全国子どもアドボカシー協議会設立記念全国セミナーの共催

2022/5/5 対面開催
＠早稲田大学121号館

全国で子どもアドボカシーの推進にかかわる団体・個人で構成する「全国子どもアドボカシー協議会」が発足し、その設立を記念する全国セミナーが全国子どもアドボカシー協議会主催、早稲田大学社会的養育研究所共催で開催されました。

米国ケンプセンターの取り組みに関する勉強会の開催

2022/11/28 対面開催
＠早稲田大学大隈記念タワー

ケンプセンター (子どもの虐待ネグレクトに対する予防・治療のためのケンプセンター) はコロラド大学医学部小児科内にある、子どものマルトリートメントに関する領域において、国際的にも主導的な立場にある研究所です。ケンプセンターのマーケル・ホルグイン准教授をお招きし、大学内にある研究所としての立ち位置などをご講義いただきました。

日本子ども虐待防止学会第28回学術集会ふくおか大会における公募シンポジウム及びパネル展示

2022/12/10-11 ハイブリッド開催
＠福岡国際会議場、福岡サンパレス

当研究所における自治体モデルプロジェクトの取り組みを発表する機会として、「家庭養育推進自治体モデルプロジェクトの意義と課題～3歳未満里親委託率75%と在宅家庭支援への挑戦～」という題名で公募シンポジウムを実施しました。各自治体 (山梨県、大分県、福岡市) の本庁・児童相談所・民間機関等の担当者にも登壇いただき、各々の取り組みをご報告のうえ、今後の取り組みの方向性について参加者と意見交換を行いました。また、研究所全体の取り組みの発表としてパネル展示も行い、各プロジェクトの説明やパンフレット・チラシ等の配布も行いました。

その他の活動、成果等２

フォスタリング情報交換会の開催

2023/2/21 オンライン開催＠zoom

各地でフォスタリング業務が展開され、また民間フォスタリング機関への委託が進められるなか、フォスタリング業務に係る者同士の情報共有及びインプットが必要と考え、全国のフォスタリングに関わる機関や施設等に呼びかけてフォスタリング情報交換会を実施しました。まず、3つの特徴的な取り組みをしているフォスタリング機関等から実践報告、続いて厚生労働省の方に講演をしていただき、そして最後に参加者全員でグループワークをして情報の共有を行いました。

第５回FLECフォーラムの共催・登壇

2023/3/10-12 ハイブリッド開催
＠早稲田大学国際会議場

官民を問わず家庭養護とその関連分野にさまざまな立場で携わる関係者が集い、相互のネットワーク構築・強化や実効性のある施策に関する意見交換を目的とした「第5回FLECフォーラム」を、全国家庭養護推進ネットワーク主催、早稲田大学社会的養育研究所共催で行いました。また、10日のプレセッションにおける「これからの社会的養育に必要な施策・実践・研究の協働」や12日のフォーラムの各プログラムにおいて、当研究所の研究員が登壇しました。

総合研究機構主催「With コロナ時代の人間と社会の在り方を考える」シンポジウムへの登壇

2023/3/8 ハイブリッド開催
＠早稲田大学14号館201室

総合研究機構所属の５研究所が登壇し、学外連携先との対談形式で研究活動、お互いの立場からの課題の捉え方、研究に期待することなど報告を行い、当研究所からは自治体モデルプロジェクトで連携している山梨県担当者と担当研究員、所長を交えて報告をしました。

2022年度自治体モデルプロジェクト「研修交流会」の開催

2023/3/24-25AM ハイブリッド開催
＠早稲田大学121号館

自治体モデルプロジェクト（山梨県、大分県、福岡市）の関係機関が集まり、年間を通した取り組みを振り返りながら、各県の関係者が一体となったより良い家庭養育推進の在り方を検討するため研修交流会を実施しました。1日目は、アドバイザー講義及び社会的養護経験者から構成されるユース会議のメンバーからの話題提供に加えて、各自治体より実践報告をいただきました。2日目は、官民わかれてのディスカッション、自治体ごとのグループワークを行い、現在の取り組み課題を共有しつつ、それ対する今後のアクションプラン作成を行いました。

社会的養育研究所「事業報告会」の開催

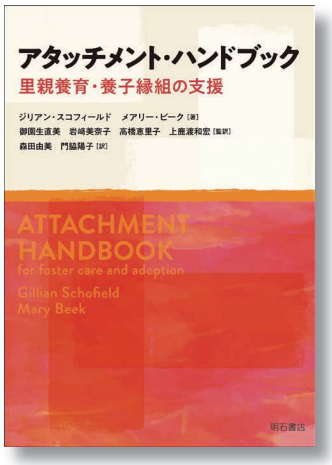
2023/3/25PM ハイブリッド開催
＠早稲田大学121号館

当研究所は、2020年４月の開設から３年目を迎え、これまでの調査研究・研修実施・翻訳出版等の取り組みを広く知っていただくとともに、今後の研究所の方向性や取り組みに示唆をいただくことを目的として、事業報告会を開催しました。対面・オンライン合わせて↗100名を超えるご参加をいただき、各プロジェクトの担当者から実施内容の説明を行ったうえで、今後の取り組みの方向性について意見交換を行いました。

事業報告会の様子は、右のQRコード（社会的養育研究所ホームページ「2022年度事業報告会 1/2・2/2」）からご覧いただけます。

翻訳プロジェクト：書籍出版のお知らせ

以下２冊の書籍の監訳を当研究所研究員が担当し、出版いたしました。



『アタッチメント・ハンドブック』里親養育・養子縁組の支援

明石書店／A5／528P

ジリアン・スコフィールド 著
メアリー・ビーク 著
御園生 直美 監訳
岩﨑 美奈子 監訳
高橋 恵里子 監訳
上鹿渡 和宏 監訳
森田 由美 訳
門脇 陽子 訳

子どもの心と行動、養育者の心と行動の相互作用を理解するうえで重要な概念であるアタッチメント。本書は、アタッチメント理論を実践の場で活用したいと願う人たちに向けて書かれた。里親、養親、彼らを支援する人々にとって治療的養育の実践ガイドとなる一冊。

『里親養育における乳幼児の理解と支援』

乳幼児観察から「ウォッチ・ミー・プレイ！」の実践へ

誠信書房／A5／190P

ジェニファー・ウェイクリン 著
御園生 直美 監訳
岩﨑 美奈子 監訳
佐藤 明子 訳

里親家族を支援することを目的とした２つの臨床アプローチ――乳幼児観察を応用した「治療的観察」と、誰にでもできる方法として開発された「ウォッチ・ミー・プレイ！」を、ケースを交えながら丁寧に解説。

社会的養育研究所「移転」のお知らせ

このたび研究所を下記に移転いたしましたので
ご案内申し上げます。

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田1-3-10
29-7号館221室

＜アクセス＞

- 東京メトロ東西線「早稲田」駅から徒歩約５分
- 都電荒川線「早稲田」駅から徒歩約10分
- JR山手線「高田馬場」駅から徒歩約20分

Research Institute for Children's Social Care
早稲田大学 社会的養育研究所
https://waseda-ricsc.jp
お問い合わせ:waseda.ricsc@gmail.com

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION